

- 問1 幕末の開港にともなう生糸の大量輸出が日本国内の経済に与えた影響と、それに対して幕府がとった政策の説明として正しいものはどれですか。  
(2024年 埼玉県公立入試 類似)
- 国内で生糸が不足し価格が急騰したため、幕府は「五品江戸廻送令」を出し、江戸の間屋を経由させて流通を統制しようとした。
  - 輸出による利益で国内が好景気となったため、幕府はさらなる自由貿易を推進し、関税を撤廃する政策をとった。
  - 安価な外国産の生糸が流入し国内産業者が打撃を受けたため、幕府は「株仲間」を再興して輸入制限を実施した。
  - 生糸の品質低下を防ぐ目的で、幕府は「富岡製糸場」を建設し、国が直接生産と輸出を管理する体制を整えた。
- 問2 19世紀半ばのアメリカ合衆国では、北部と南部の間で対立が深まり、南北戦争が勃発しました。この対立のうち、当時の「南部」の主張や状況を正しく説明しているものはどれですか。  
(2020年 三重公立入試 類似)
- 自国の工業製品を外国の競争から守るため、輸入品に関税をかける保護貿易を求めた。
  - 綿花の輸出を促進し、イギリスなどから安価な工業製品を輸入するために自由貿易を求めた。
  - 人道的立場や工業における労働力確保の観点から、奴隷制の廃止を強く主張した。
  - 連邦政府の権限を強めることで、国家の一体性を維持しようとする中央集権的な考えを持っていた。
- 問3 幕末の開港に際し、欧米諸国では金1に対して銀15の交換比率であったのに対し、日本では金1に対して銀5という比率でした。この交換比率の差を利用して、外国人商人が日本から大量の金貨を持ち出した問題に対し、幕府がとった対策とその影響として正しい説明はどれですか。  
(2025年 山梨公立入試 類似)
- 金の含有量を大幅に減らした万延小判を鋳造して、金貨の価値を国際水準まで引き下げたが、貨幣の価値自体が下落したため激しい物価上昇を招いた。
  - 金の含有量を大幅に増やした万延小判を鋳造して、金貨の信頼性を高めたが、国内の金が不足したため深刻なデフレが発生した。
  - 銀の含有量を大幅に減らした新しい貨幣を鋳造して、銀の価値を無理やり引き上げたが、農民による激しい一揆が全国で発生した。
  - 外国との交換比率を統一するために新しい紙幣を発行したが、偽造が相次いだため貿易が停止する事態となった。
- 問4 1853年にペリーが日本に来航し開国を求めた背景には、当時のアメリカ合衆国におけるどのような社会状況の変化がありましたか。その理由として正しい説明を選びなさい。  
(2021年 島根公立入試 類似)
- 領土を太平洋沿岸まで拡大させたことで、アジアとの貿易路を確保する必要が生じたため
  - イギリスとの産業競争に勝ち、世界最大の工業国「世界の工場」として君臨したため
  - ロシアによるシベリア進出を阻止するため、東アジア諸国と軍事同盟を結ぼうとしたため
  - 国内の人口増加を解消するため、東アジアを新たな移住先となる植民地にする必要があったため
- 問5 大政奉還が行われた際の政治的背景や、その後の動きについての説明として最も適切なものはどれですか。  
(2022年 熊本県公立入試 類似)
- 徳川慶喜は政権を返上したが、直後に倒幕派によって天皇中心の政治を宣言する王政復古の大号令が出された。
  - 大政奉還によって徳川家の支配力はさらに強まり、江戸幕府による政治がその後も30年以上継続した。
  - 朝廷は政権を返上された直後に、徳川慶喜を新政府の最高責任者である総理大臣に任命した。
  - 大政奉還が行われたのと同時に、全国の藩を廃止して県を置く廃藩置県が即座に実施された。
- 問6 アヘン戦争の結果、1842年にイギリスと清の間で締結された南京条約およびその関連条約の内容として、当時の状況を説明したものとして適切なものはどれですか。  
(2022年 千葉県公立入試 類似)
- 上海や広東など5つの港を開港し、清側に認められていなかった関税自主権を失った。
  - 日本に対して多額の賠償金を支払い、台湾や遼東半島を割譲した。
  - キリスト教の布教の自由を認め、北京に外国の公使を駐在させることを約束した。
  - ロシアとの国境をアムール川と定め、沿海州を共同管理とすることに合意した。
- 問7 1838年に誕生した人物が成長し、1867年に大政奉還の建白が行われるまでの幕末の動乱期において、政治的な出来事が起きた順序として正しいものはどれですか。  
(2016年 佐賀公立入試 類似)
- 日米和親条約の締結による開港が行われ、その後、幕府に反対する勢力を弾圧した安政の大獄が起き、最終的に薩摩藩と長州藩による薩長同盟が結ばれた。
  - 薩摩藩と長州藩による薩長同盟が結ばれた後、日米和親条約による開港が実現し、その後に幕府が反対派を抑え込むための安政の大獄を断行した。
  - 幕府が安政の大獄によって反対勢力を一掃した後に日米和親条約を締結して開港し、その数年後に薩摩藩と長州藩が協力して薩長同盟を結んだ。
  - 日米和親条約による開港が決定する前に薩摩藩と長州藩が薩長同盟を結成し、その軍事力を背景に安政の大獄と呼ばれる弾圧を幕府に行わせた。
- 問8 静岡県伊豆の国市にある遺構や、薩摩藩が建設した当時の模型、およびそこで鋳造された大砲の模型から確認できる、幕末の技術革新の象徴とされる施設の名称を答えなさい。  
(2024年 鹿児島県公立入試 類似)
- 反射炉
  - 製糸場
  - 商館
  - 適塾
- 問9 幕末の薩摩藩や肥前藩などにおいて、鉄を高熱で溶かすことで大砲などの強力な武器を自力で製造するために建設された施設を何といいますか。  
(2024年 鹿児島県公立入試 類似)
- 反射炉
  - 富岡製糸場
  - 藩校
  - 造船所
- 問10 18世紀末から19世紀半ばにかけて、江戸幕府は外国船の来航に対し、強硬な姿勢から穏和な姿勢へと方針を二転三転させました。1842年に幕府が、それまでの「異国船を容赦なく打ち払う」という方針を撤回し、漂着した船に燃料や食料を分け与えて帰帆させることとした背景として最も適切な理由を記述した文を選んでください。  
(2017年 千葉県公立入試 類似)
- アヘン戦争で大国である清がイギリスに敗北したという情報を得て、武力衝突を避ける必要性を感じたため。
  - ロシアのラクスマンが根室に来航し、正式な国交を結ぶことが幕府の利益になると判断したため。
  - 蚕社の獄によって弾圧された蘭学者たちの主張を認め、海外との自由貿易を推進する方針へ転換したため。
  - 江戸湾の沿岸警備を強化するなかで、軍事費の増大を抑制するために平和外交を優先せざるを得なかったため。
- 問11 18世紀後半、江戸幕府の財政再建と社会秩序の回復を目指して松平定信が行った「寛政の改革」の内容として、当時の社会状況を正しく反映しているものを選びなさい。  
(2020年 岡山公立入試 類似)
- 田沼意次時代の賄賂政治や風紀の乱れを正すため、質素儉約を強制し、旗本・御家人の借金を帳消しにする「棄捐令」を出した。
  - 享保の改革の成功に倣い、新田開発をさらに促進するとともに、目安箱を設置して江戸町民の意見を直接政治に反映させた。
  - 外国船の来航という危機に対応するため、台場（砲台）の築造を急ぐとともに、反対派の吉田松陰や橋本左内らを処刑した。
  - 物価高騰の原因は商人の独占にあると考え、株仲間を解散させることで流通の自由化を図り、江戸の物価安定を試みた。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 国内で生糸が不足し価格が急騰したため、幕府は「五品江戸廻送令」を出し、江戸の間屋を経由させて流通を統制しようとした。	生糸が海外へ大量に流出したことで、日本国内では生糸不足に陥り、価格が激しく上昇しました。これによって国内の絹織物業が打撃を受け、物価高騰に苦しむ人々が増えたため、幕府は1860年に「五品江戸廻送令」を出し、生糸などの重要品目を横浜へ送る前に必ず江戸の間屋を通すよう命じました。しかし、利益を求める商人や外国からの反対により、この法令は大きな成果を上げることができませんでした。
問2	<b>答え 2</b> 綿花の輸出を促進し、イギリスなどから安価な工業製品を輸入するために自由貿易を求めた。	当時のアメリカ南部は広大な農場での綿花栽培を主産業としており、主な輸出先であるイギリスとの取引を円滑にするため、関税のない自由貿易を求めています。これに対し、工業化を進めていた北部は、安価なイギリス製品から国内産業を守るために保護貿易を主張しており、経済政策をめぐる対立が南北戦争の大きな要因の一つとなりました。
問3	<b>答え 1</b> 金の含有量を大幅に減らした万延小判を製造して、金貨の価値を国際水準まで引き下げたが、貨幣の価値自体が下落したため激しい物価上昇を招いた。	当時の日本と海外では金銀の交換比率が大きく異なっており、日本で銀を金に替える方が圧倒的に有利であったため、日本の金貨が大量に国外へ流出しました。幕府はこれに対抗するため、金の含有量を従来の安政小判の3分の1以下にまで減らした「万延小判」を発行し、金貨1枚あたりの価値を実質的に下げる対策をとりました。しかし、市場に流通する貨幣の質が低下したことで貨幣価値が暴落し、幕末の混乱を助長する激しい物価の上昇（インフレーション）を引き起こす原因となりました。
問4	<b>答え 1</b> 領土を太平洋沿岸まで拡大させたことで、アジアとの貿易路を確保する必要が生じたため	アメリカは1840年代にカリフォルニアなどを獲得して太平洋に到達しました。これにより、巨大な市場である中国や東アジアとの貿易を、太平洋を横断して行うことが現実的になりました。その航路の途中に位置する日本は、燃料や食料の補給拠点として、また遭難船の保護場所として極めて重要な存在となったため、強力な外交交渉（砲艦外交）を展開しました。
問5	<b>答え 1</b> 徳川慶喜は政権を返上したが、直後に倒幕派によって天皇中心の政治を宣言する王政復古の号令が出された。	徳川慶喜は大政奉還によって徳川家の政治的影響力を残そうとしましたが、岩倉具視や薩摩藩・長州藩などの倒幕派は、徳川家を完全に排除した新政府の樹立を目指しました。そのため、大政奉還のすぐ後に「王政復古の号令」を出し、幕府の廃止と天皇中心の新しい政治の開始を宣言しました。
問6	<b>答え 1</b> 上海や広東など5つの港を開港し、清側に認められていなかった関税自主権を失った。	南京条約では5港の開港、香港の割譲、多額の賠償金の支払いが定められました。その後の追加条約によって、イギリス側の領事裁判権の容認や、清側の関税自主権の欠如といった不平等な内容が確定しました。これはアジア諸国が欧米列強に対して結ばされた不平等条約の先駆けとなり、日本などの周辺国に大きな危機感を与えました。選択肢にある台湾の割譲は日清戦争、北京の公使駐在はアロー戦争（第二次アヘン戦争）の結果です。
問7	<b>答え 1</b> 日米和親条約の締結による開港が行われ、その後、幕府に反対する勢力を弾圧した安政の大獄が起き、最終的に薩摩藩と長州藩による薩長同盟が結ばれた。	1854年の日米和親条約締結によって長年の鎖国体制が終わって開港が実現しましたが、これに反対する尊王攘夷派の動きが激化しました。1858年から1859年にかけて大老の井伊直弼がこれらの反対勢力を厳しく処罰したのが安政の大獄です。この弾圧が幕府への不信感を高めることとなり、1866年に坂本龍馬らの仲介によって、かつて対立していた薩摩藩と長州藩が薩長同盟を結び、倒幕の流れが決定的となりました。
問8	<b>答え 1</b> 反射炉	静岡県にある韮山反射炉は、実際に大砲を製造した反射炉として現存する唯一の遺構であり、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の一つにも含まれています。当時、西洋の技術書を翻訳・研究し、薩摩藩や肥前藩が先駆けて導入したこの施設は、日本の近代工業化の発原点として位置づけられています。
問9	<b>答え 1</b> 反射炉	幕末、欧米列強の進出に対抗するため、日本各地の有力な藩は軍備の近代化を急ぎました。従来の青銅製よりも強力な鉄製の砲を作るためには、鉄を高温度で溶かす高度な技術が必要であり、そのために建設されたのが反射炉です。特に佐賀藩（肥前藩）や薩摩藩、江戸幕府による韮山（静岡県）のものが有名です。
問10	<b>答え 1</b> アヘン戦争で大国である清がイギリスに敗北したという情報を得て、武力衝突を避ける必要性を感じたため。	1825年に出された異国船打払令によって幕府は強硬姿勢を強めていましたが、隣国である清がイギリスとのアヘン戦争に敗れたというニュースは幕府に大きな衝撃を与えました。西洋列強の圧倒的な軍事力を認識した幕府は、同様の紛争が日本で起こることを恐れ、1842年に新水給与令を発令して、人道的な支援を行った後に速やかに立ち去らせるという方針に転換しました。
問11	<b>答え 1</b> 田沼意次時代の賄賂政治や風紀の乱れを正すため、質素儉約を強制し、旗本・御家人の借金を帳消しにする「棄捐令」を出した。	寛政の改革は、商業重視から農本主義的な政治への回帰を目指しました。旗本・御家人の困窮を救うための「棄捐令」や、朱子学以外の講義を禁止する「寛政異学の禁」が特徴です。他の選択肢は、徳川吉宗による享保の改革（目安箱）、井伊直弼による安政の大獄（吉田松陰の処刑）、水野忠邦による天保の改革（株仲間の解散）の内容であり、寛政の改革とは異なります。